

気候ネットワーク シンポジウム

市民が進める温暖化防止2006～温暖化防止の未来づくり～

---

第3部 2020年自然エネルギー20%を目指して

## 地球温暖化と自然エネルギー

2006年12月16日

地球環境と大気汚染を考える全国市民会議（CASA）

自然エネルギー市民の会（PARE）

早川光俊

# 何を話すか

---

急速に進む地球温暖化

2 が限度

増加する温室効果ガス排出量

6%削減不能な「京都議定書目標達成計画」

地球温暖化を防止するために

自然エネルギーの特長

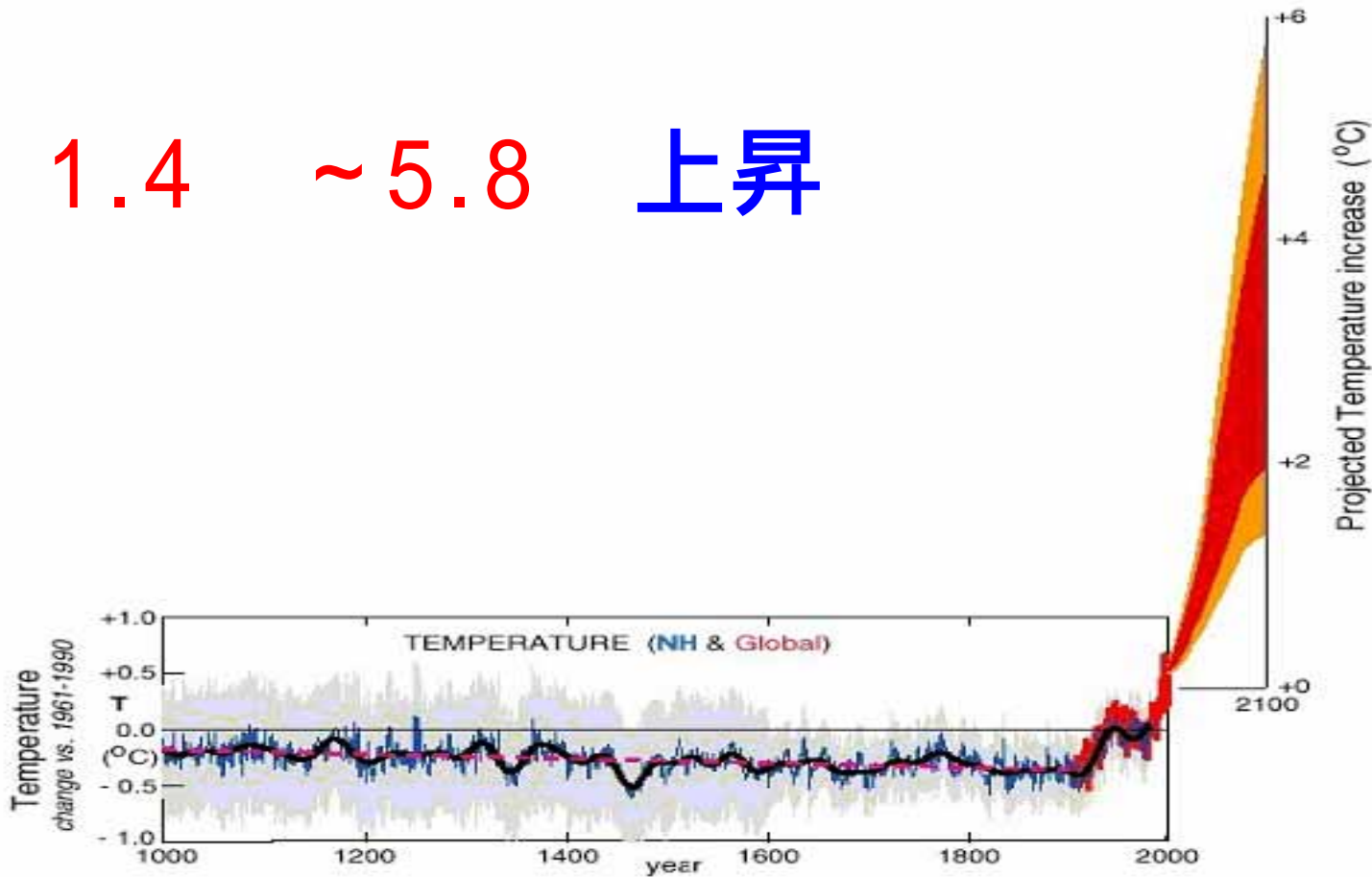
自然エネルギー市民の会とは

市民こそ環境問題解決のカギ

---

# IPCCの今後100年の平均気温の予測

1.4 ~ 5.8 上昇



# 気候の安定化に関する科学シンポジウム

(2005年2月英国 ; Avoiding Dangerous Climate Change)

---

一般的には、1-3 気温が上昇すると被害が増加する。

グリーンランドでは地域的な気温が2.7 上昇すると氷雪の融解が起き、約1 の全球気温上昇で大規模なサンゴ礁の白化が起こる。

3 以上の気温上昇で、海洋大循環の停止、陸域吸収源の排出への逆転、南極氷床の不安定化などの、大規模で深刻な影響が発生する可能性。

25%の哺乳動物と12%の鳥類が、20-30年に間に絶滅する恐れ。

---

	1 ~ 2	2 ~ 3
経済影響	途上国に大きな影響。	途上国・先進国を問わず重大な影響を受け、世界の経済が悪化。
食料安全	熱帯・亜熱帯諸国の農業生産への重大な影響。	中緯度地域、温帯でも穀物生産高の減少。飢餓人口が5000万~1億2000万人増加。
水不足	約5億人に供給減少や水質悪化の影響。	30億人以上が水不足の危険に直面。
異常気象	異常気象の頻度の増加と激化。保険コストの増加。	洪水、干ばつなどの異常気象がさらに増加する。
健康影響	熱や異常気象の頻発と激化に起因する死亡と疾病が増加。	3億人がマラリア感染のより大きな危険にさらされ、デング熱の危険性も更に高まる。
生態系	山火事や害虫の蔓延。サンゴの大量死滅。海面上昇によって沿岸湿地帯が10%まで消失。	特有の生態系や固有種の喪失。北極地方や北方林、山岳地帯の生態系に重大な被害や破壊。
氷の融解と海面上昇	グリーンランドの氷床は、1~3度の気温上昇で融解し、今後数世紀にわたって数メートルの海面上昇を引き起こす可能性。	グリーンランドや西部南極の氷床の崩壊の可能性。2500年までに1~2m、今後1000年間には2~3メートルの海面上昇の可能性。

# 中央環境審議会国際戦略専門家委員会（2005年5月）

---

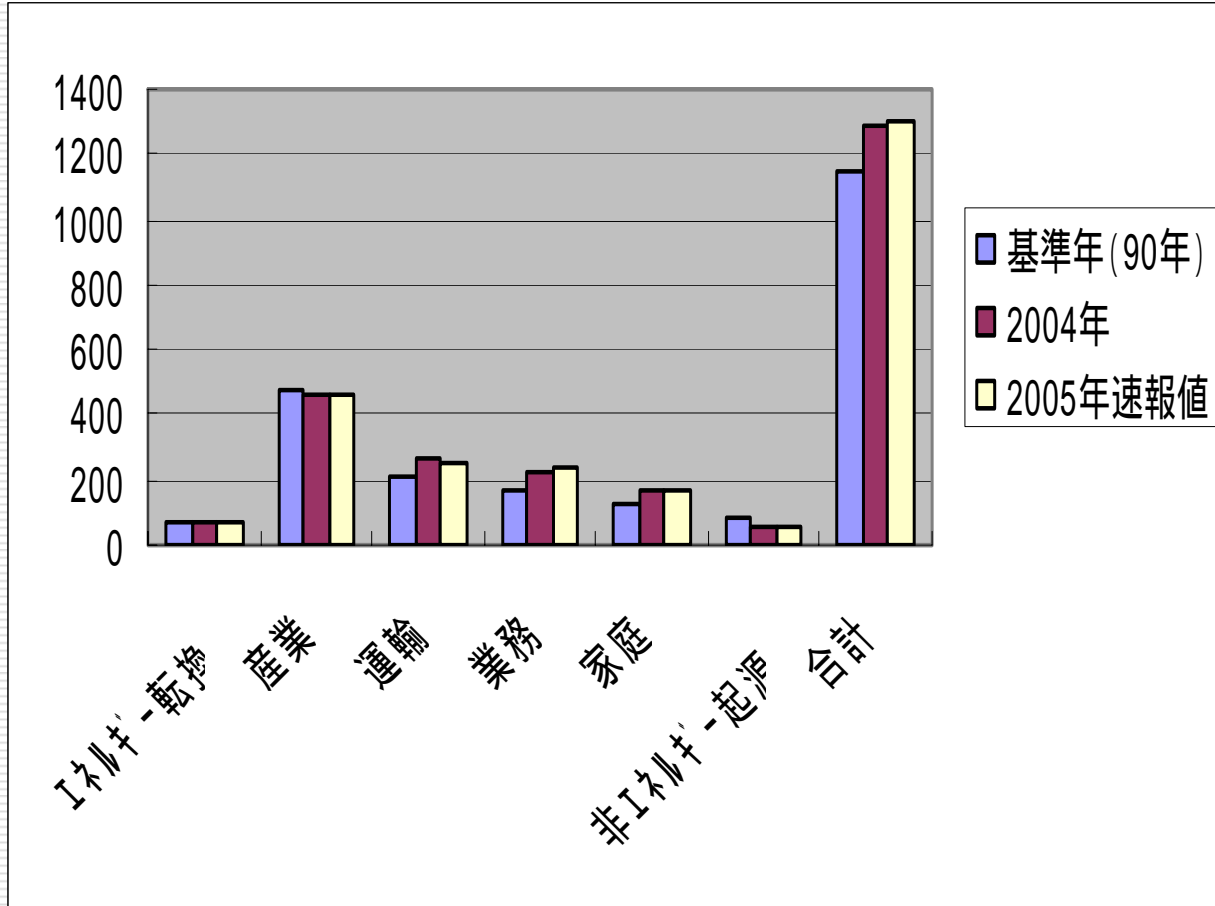
気温上昇幅が2～3℃になると、地球規模で悪影響が顕在化する。気温上昇幅を2℃に抑制することは、地球規模での悪影響の顕在化を未然に防止することになる。

全温室効果ガスで550ppmに安定化させても、気温上昇幅が2℃を超える確率は相当に高いため、2℃以下に抑えるためには約475ppmの水準が必要。

2℃未満に抑制するためには、世界全体の全温室効果ガスの排出量を1990年に比べ2020年で10%、2020年で50%、2100年で75%削減する必要がある。

---

# 日本のCO2排出量は90年比13.3%増



前年比で0.8%  
増加

温室効果ガス  
全体では、基  
準年比8.1%  
増

温室効果ガス  
全体の前年比  
は0.6%増

2005年度速報値（単位；百万t-CO2）

# 京都議定書目標達成計画

区分	2010年の排出量 (百万tCO2)	1990年度比 (%)	2010年現状対策ケース (12%増)からの削減量	
1.温室効果ガスの削減	1,231	0.5	6.5	
	エネルギー起源CO2	1,056	+ 0.6	4.8
	非エネルギー起源 CO2	70	0.3	0.4
	メタン	20	0.4	
	一酸化二窒素	34	0.5	
	代替フロン等3ガス	51	+ 0.1	1.3
2.森林吸収源対策	48	3.9	3.9	
3.京都メカニズム	20	1.6	1.6	
合計	1,163	6.0	12.0	



# 京都議定書目標達成計画の問題点

---

大きな不確実性があり、6%達成は困難。  
吸収源で3.9%は極めて困難。

「原子力発電所の着実な前進」を前提としているが、原子力発電所の新增設は困難。

産業界の自主行動計画への依存。

国民による取り組みも、実効性を担保する政策がない。

---

# 森嶋昭夫氏の衆院参考人質疑での発言

---

**問** 京都議定書目標達成計画で6%削減ができるか？

**答弁** 端的に申しますと、できません。現に、中環審の予測でも、9%ぐらいできない。・・・1.6%京都メカニズムを利用して7%ぐらい足りないということになりますので、一層の追加的な対策を立てなければならぬということになります。」

**注** 森嶋昭夫氏

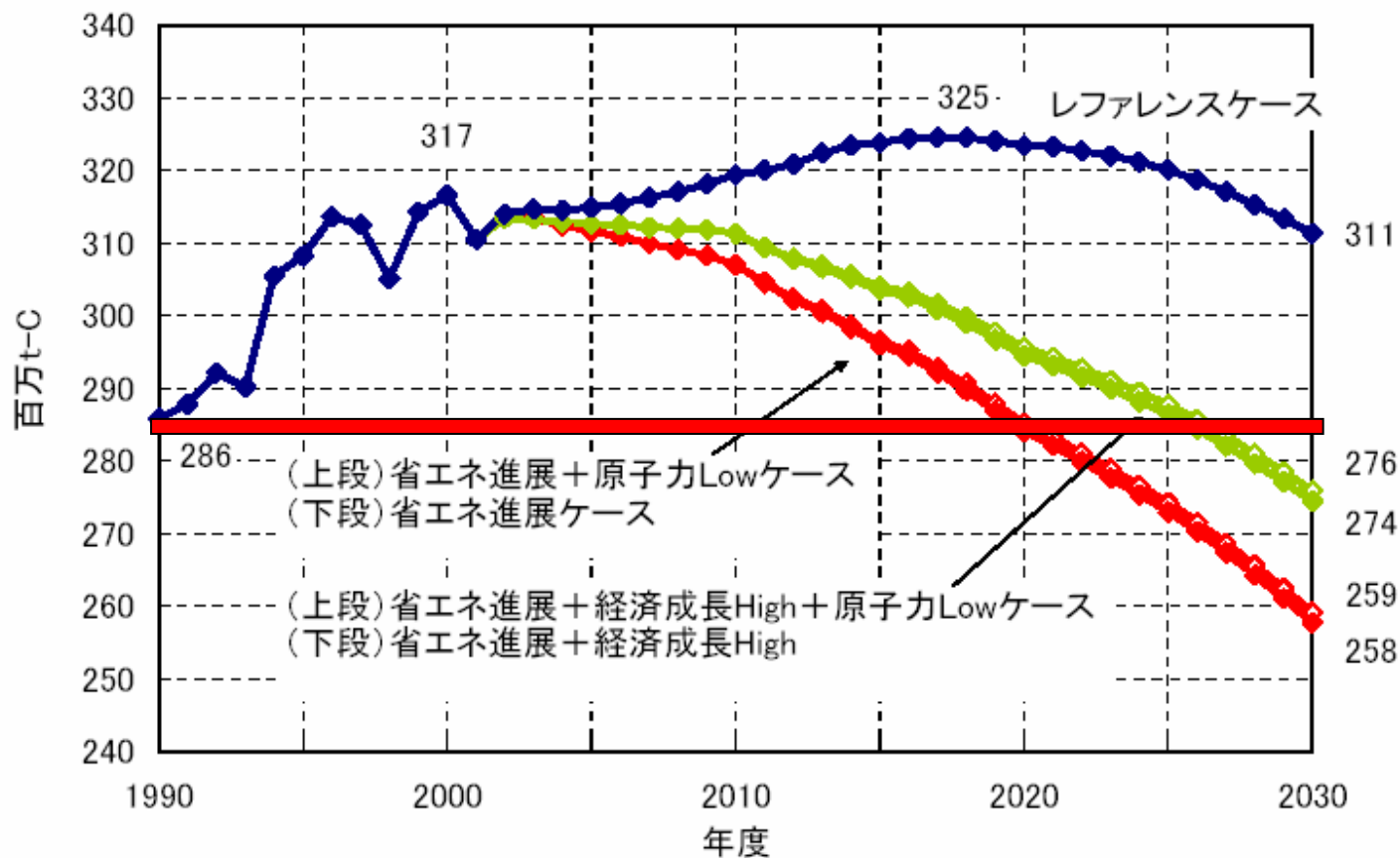
地球環境戦略研究機関（IGES）理事長

政府の地球温暖化対策を審議する審議会合同会議議長

中央環境審議会の前会長

---

# 経産省のエネルギー起源CO2排出予測



# 地球温暖化を防止するために

---

温室効果ガスの排出増加が温暖化の主要な原因  
化石燃料由来のCO<sub>2</sub>が温室効果の6割。

日本のCO<sub>2</sub> 排出量の90%が化石燃料から。

化石燃料からの脱却

省エネ行動

自然エネルギーへのエネルギー源の転換

---

# 自然エネルギーの特長

---

環境に優しい

CO<sub>2</sub>の排出量が少なく  
大気汚染などの公害もない。

枯渇しない

小規模・分散型で災害に強い

平和で安全

---

# 停滞する日本の自然エネルギーの普及

---

## R P S 法施行前後の平均伸び率

太陽光発電 45%から33%

風力発電 78%から38%

風力発電の導入設備容量は、2005年末で、ドイツの15分の1

世界1の太陽光発電の導入設備容量も、2005年にはとうとうドイツに追い抜かれた

---

# 固定価格買取制度とRPSの特徴の違い

	固定価格買取制度	RPS
価格	一定：政府が決める．	不定：市場によって決まる．
普及量	不定：市場によって決まる．	一定：政府が決める．
自然エネルギー事業者	価格，量リスクがないため，事業計画を立てやすい．	価格，量リスクがあり，事業計画を立てにくい．
電力会社	価格，量，電源すべてに選択権なし．	価格リスクがある．買取量は一定．買取電源も自由に選択可．

# 自然エネルギー市民の会 (PARE)

---

2004年7月 設立

目的：再生可能エネルギー利用を普及することにより、  
地球温暖化をくい止め、原子力に頼らない持続  
可能な社会の実現

代表 和田 武

組織 会員 約200名

活動 市民共同発電所の建設 / 風力発電サイト調査 /  
風況調査ファンド / 自然エネルギー講座などの  
普及・啓発

---



# 市民共同発電所（太陽光）



2006年3月、東大阪市の  
ポッポ第2保育所に  
10Kwの市民共同発電  
所を開設。



# 市民こそ環境問題解決の鍵

---

地球規模の環境問題の解決のためには、  
国益や利害から自由で「地球益」を考える  
ことのできる市民・環境NGOの役割が重要。

情報に精通し、自立し、行動する市民（環  
境NGO）の存在なくして、地球規模の環境  
問題の解決はない。

---